

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.183

2012(平成24)年 3月11日(日)発行

○大雪や厳しい寒さの冬でした。今だ“春は名をみの風の寒さや”の春です。<「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ>(俵万智)という歌もあるそうです。「人」が大切なのですね。

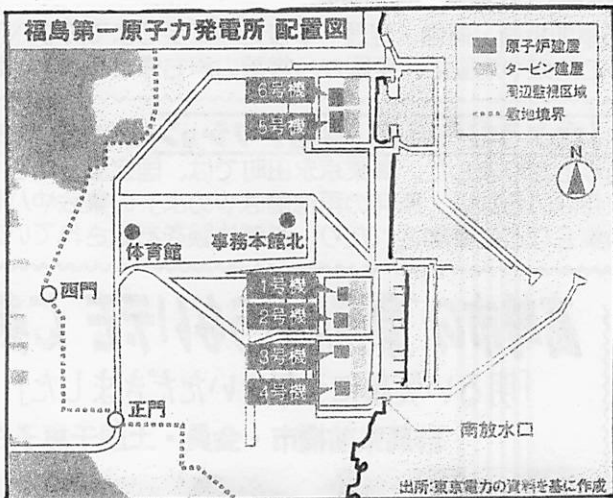


大震災・原発事故からもう一年 如何お過ごしでしょう、元気を出しましょう!

「私はあの地震の時、第一原発の3号機建屋で働いていた」

大震災・私の体験 ⑪

南相馬市原町区・「はらまち九条の会」会員・Mさん(63歳)



▲標高35mの台地を25m削り、標高10mの敷地に原子炉を設置。それは海水の汲み上げや資材の搬入の経済性優先のためだった。そしてあの日14:46に地震発生、15:27頃に最大15.5mの津波が襲い、未曾有の人災原発事故となる。



11日 PM 2:46 東日本大震災発生

PM 8:50 福島県知事が東京電力福島第一原発から2*圏に避難指示

PM 9:23 政府が3*圏に避難指示、10*圏に屋内退避指示

12日 AM 5:44 政府が10*圏に避難指示

PM 3:36 1号機爆発

PM 6:25 避難指示を20*圏に拡大

14日 AM 11:01 3号機爆発

15日 AM 6:00 4号機爆発

AM 11:00 政府が20~30*圏に屋内退避指示

福島第一原発の原子炉建屋。手前から4号機、3号機、2号機、1号機。

○記事と地図は、12年3月13日『朝日新聞』・小出裕章「原発はいらない」幻冬舎より

原発事故の責任は厳しく問われなければいけない

2011年3月11日14時46分、私は東京電力福島第一原子力発電所3号機の建屋で作業の研修中に、マグニチュード9.0の巨大地震に遭遇した。原子炉建屋の中は、複雑な配管がはりめぐらしてある。地震の揺れは、今までに経験のないほど強く長く続き、地震によって配管が損傷したことは間違いないと思われる。建屋内は停電になり、天井からボードが落下し、パニックになった。私は何とか3号機建屋から出て、上の事務所にたどり着き、命だけは助かりました。事務所も地震で被災していた。

作業員が退出する場合、退出モニター(身体の汚染検査をする機械)で検査をして出るのが普通である。でもその時はほとんどの号機建屋からは、退出モニターを通過しないで出たのだ。ある号機では、APD(線量計)を持って出た号機もありました。東京電力は07年の中越沖地震で、柏崎刈羽原発が被災しているのにその教訓がまったく生かされなかった。

私は東電の協力会社アドックスの下請け会社に、20年近く作業員として働いてきた。原子力発電所は日頃からトラブルが多い特性があり、未熟な技術で本当に危険です。今回の福島第一原発の事故では、東京電力は津波に対する対策を怠り、隠蔽体質が事故発生後の対応の不利をもたらし、特に今4号機が本当に危険な状態にあり、また大地震が起きれば大変なことになるかと心配しています。

原発政策を推進してきた経済産業省、東京大学原子力工学科を中心とする学者、自民党の族議員からなる「原子力村」も責任は重大で、厳しく問われなければならない。民主党菅直人前首相、東京電力清水正孝前社長、斑目春樹原子力安全委員長の責任も問われなければならない。除染は東京電力が責任をもって積極的に行うべきです。しかし黙り込んでやらないことに、憤りをつのらせています。

私は戦争には絶対反対で、憲法9条を守らなければならないし、発足の頃から「はらまち九条の会」に入会し活動しています。現在は、「フクシマを救おう」の署名を集める活動をしています。



3月10・11日 「蓮池透講演会+ジャズヒケシin相双」を開催

被災一周年行事 報告

「はらまち九条の会」会員 山本富士夫

■「蓮池透講演会+ジャズヒケシin相双」が、3月10・11日に相馬市と南相馬市でおこなわれました。

10日午後3時から相馬市総合福祉センターはまなす館で、講演+演奏会が開かれ、福島第一原発で働いていたこともある蓮池さんは、東電元社員としての謝罪、東電経営陣や官僚に対する率直な批判を、穏やかにかつ真摯に語ってくれました。そして、ジャズ演奏「ジャズヒケシ」とはジャズを通じ平和構築紛争解決活動をおこなっているジャズトランパッターで東京外大教授の伊勢崎賢治さんがしかけるイベントで、今回の演奏には、小高区出身のドラマー二本松義史さんのトリオも加わりました。さらに、地元相馬高校吹奏楽部も競演（実はオープニングとエンディングはこちらが主役でした）。

講演と演奏の合間には、「地元からの訴え」を、東京そして北海道からバス3台を連ねて参加したツアー客に対して、4人の方が3・11後の農業・漁業・学校教育での困難な実情を訴えました。

翌11日は被災地見学。津波被害の原釜地区、事故によって翻弄されている学校現場の鹿島中学校・原町高校、理不尽な境界線によって分断された原釜20kmの原町区高地区集落などを見学後、南相馬市の「ゆめハット」での慰霊祭では入口で記帳されていました。このイベントは、相馬市九条の会、南相馬市内九条の会4団体（鹿島・小高・はらまち・相双教職員）が企画から事前折衝・運営・経理・事後処理に至るまでのすべてを担当しました。被災地の相双地区「九条の会」のこうした結束や活動に、全国から賞賛の声も寄せられています。



元東電社員として謝罪し「東京電力は解体するしかない」と蓮池透さん。

■郡山市開成山野球場が会場の「集会&パレード3・11さようなら原発 福島アクション」も、大江健三郎のメッセージや加藤登紀子コンサートで、大いに盛り上がりました。■東京永田町では、国会議事堂を1万人以上で取り囲み「人間の鎖」をつくったり、全国各地で「原発はいらない・原発の再稼働はやめよ」の集会やパレードが行われました。■本会会員の皆様も、県内や全国各地の集会などに参加されたり、避難体験をお話されています。

3・11イベントを企画・参加して

八王子駅で「南相馬市震災写真展」

東京都八王子市・会員・佐藤喜彦さん

「生まれ育った南相馬が悲劇の地になった」と、被災写真の説明する佐藤さん。



八王子市の若い！会社員佐藤喜彦さんは南相馬市出身で、日頃は「はらまち九条の会」事務局員としてホームページを担当されています。3月11日JR八王子駅改札口前で、主催同市社会福祉協議会で「追悼 東日本大震災写真展」を開催、南相馬市などの被災写真61枚を展示した。会場を訪れ、涙ぐむ福島県出身者も多かったそうです。

八王子市内には福島県の被災者約300人が避難していますが、佐藤さんは昨年支援団体「つながろう！八王子市で！」を立ち上げ、本県の地方紙や県産お菓子などで月1回お茶会を開き、被災者に交流の場を提供している。＜4月の花見会は22日（日）八王子市明神町2-7-7明神団地自治会館で。参加費200円。TELFAX042-697-9223佐藤へ予約を。＞「生まれ育ち、大好きだった南相馬が悲劇の地になり悲しいが、目を背けないで、八王子でできることを写真を見ながら考えてもらいたい」と熱く話しています。

高崎市の「原発はいらないデモ」に参加

「明るい笑顔に元気をいただきました」

群馬県前橋市・会員・土屋千恵子さん



多子連れの若い母親も多かった「高崎市の三・一脱原発集会」にスロガン（スローガン）を掲げて参加。左から夫、友人、私です。

私は前橋市に住んでいて、一度も南相馬市に行ったこともなく、相馬野馬追祭りも見ただけです。ですが5年ほど前、南相馬市の友人から送られてきた「はらまち九条の会」の会報を読んで入会いたしました。そして大震災後の南相馬市の大変な状況に、心を痛めています。

「3・11の脱原発の集会」は国内だけでなく、諸外国でも行われ、歴史的な日になりましたね。私と夫は群馬県高崎市の城址公園での集会に参加しました。曇空の寒い天気の中、2,600人が参加し、懐かしい友人や知人にも会えました。前橋の「大根九条の会」の知り合いから、余っているゼッケンを借り、首にかけていただきました。デモ行進は3つのコースがあり、私は一般コースに入って歩み出したら、若い母親と子供さん連れが多くて、大変賑やかでした。街角ではどこも高校生達が並んで、それぞれの思いをスローガンに掲げ、その明るい笑顔に元気をいっぱいいただきました。

南相馬市の皆様も健康にお気を付けて、放射能に負けないで頑張ってください。

中古ピアノ/寄贈します！「鎌倉市九条の会」では、被災地の私立幼稚園や保育所などへ贈る中古ピアノ10台を準備しています。調律費や輸送費は無料。＜ご希望の団体は、本会事務局山崎TEL090-7527-5453へ＞